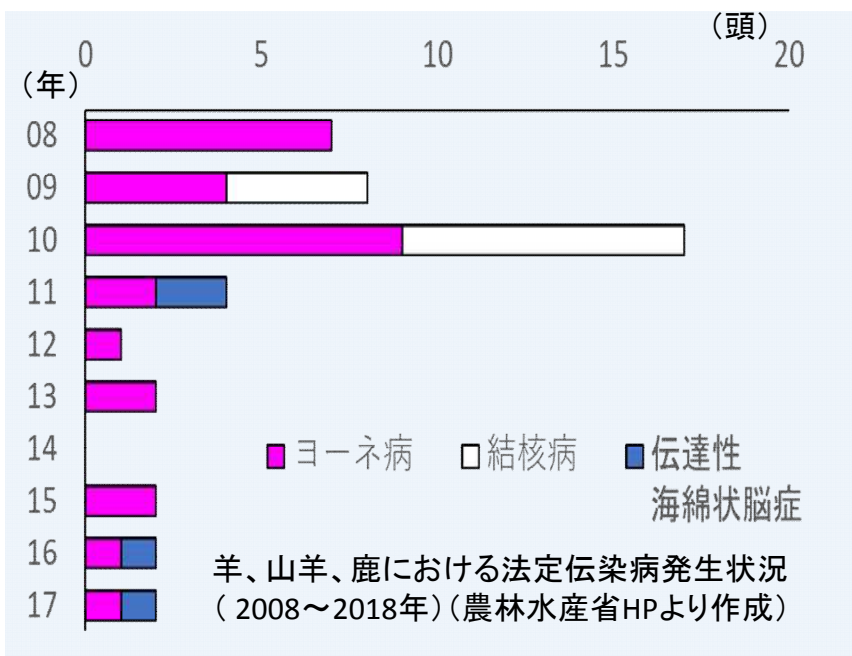


# めん羊・山羊・鹿などの病気に注意しましょう

羊、山羊、鹿などの病気の一部は、牛や豚に感染して畜産業に大きな影響を与えるため、家畜伝染病予防法により監視伝染病に指定され、発生予防及びまん延防止対策が取られています。

最も注意が必要な病気は、**口蹄疫**です。様々な偶蹄類が感染し、牛や豚での大規模な発生が2010年にありました。それ以降、国内では見つかりませんが、中国、韓国などのアジアを中心に毎年多く発生しており、侵入リスクが高い状況です。



## ☆注意が必要な監視伝染病の一例☆

疾病名	原因物質	症状	特徴など
口蹄疫	口蹄疫ウイルス	口、鼻、蹄(ひづめ)、乳頭に水疱(すいほう)を形成し、発熱、よだれ、食欲不振、歩行困難 など	・接触感染、空気伝播 ・伝染力が非常に強い <u>似たような症状があれば連絡をお願いします</u>
ヨーネ病	ヨーネ菌	慢性の頑固な下痢 削瘦	・経口感染 ・症状を出さない場合もある
伝染性海綿状脳症 (スクレイピー、鹿慢性消耗病)	プリオン (感染性たんぱく質)	異常行動、過敏症、不安、歩様異常、後軀麻痺、泌乳量の低下、掻痒症、脱毛 など	・めん羊・山羊のスクレイピーは散発的な発生 ・非定型スクレイピーの発生増加が報告されている
結核病	結核菌	症状は少ない 重症例で発咳、呼吸困難	経気道感染 牛と鹿は感受性が高い



## 飼養衛生管理基準を遵守しましょう

- 関係のない人を畜舎に入れない
- 畜舎に出入りする場合は長靴や手指を消毒をする
- 海外で使用した衣服や靴を持ち込まない など

羊や山羊で発生の見られる監視伝染病の一部を紹介します。

## 羊の病気



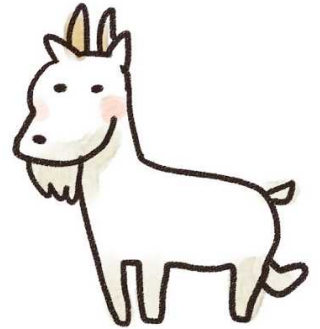
### 伝染性疱性皮膚炎(ウイルス)

- ・接触または経口感染によりうつる
- ・口唇、顔面、乳頭等に丘疹や水疱の形成  
→ 膿んだりしたのち、かさぶたの形成
- ・1、2か月で治ることが多い
- ・治療薬はないため、感染個体を隔離する

### マエディ・ビスナ(ウイルス)

- ・飛沫感染が主だが、母乳を介してもうつる
- ・発症率は30%以下と低く、潜伏期間が長いので、発生の多くは成獣である
- ・進行性の肺炎(発咳、元気消失～呼吸困難)、乳房炎、まれに脳脊髄炎
- ・予防及び治療法はないため、摘発淘汰が重要

## 山羊の病気



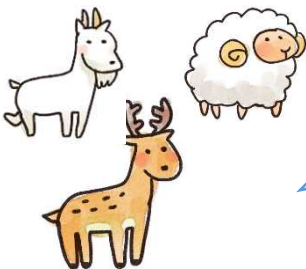
### 伝染性無乳症(マイコプラズマ)

- ・伝染力が強く、飛沫、経口、接触、垂直感染によりうつる
- ・倦怠、食欲不振、乳房炎から無乳症、手根関節や足根関節などに多発性の関節炎や、角結膜炎、流産や下痢
- ・治療は抗生物質の投与、発症家畜の早期淘汰する

### 山羊関節炎・脳脊髄炎(ウイルス)

- ・初乳・常乳を介してうつる
- ・発症率は10%程度とされ、多くが臨床症状を示さない  
幼若齢;非化膿性脳脊髄炎による運動失調、起立不能  
成獣;間質性肺炎による呼吸器症状や、非化膿性乳腺炎による乳房のしこり
- ・予防治療法はなく、発症家畜の摘発淘汰が基本

## 共通



### 伝染性海綿状脳症の検査を受けましょう

12か月齢以上のめん羊・山羊・鹿が死亡(又は淘汰)した場合は、家畜保健衛生所にご連絡ください。

下痢が止まらなく痩せてきた、血便や発熱を伴う下痢が広まってきたなど、いつもと違うことがありましたら、御相談ください。

検査に関するお問合せは・・・

栃木県北家畜保健衛生所 防疫課

TEL:0287-36-0314 FAX:0287-37-4825